

様式第2号

視察研修先	鳥取県米子市議会	氏名	太田 陽子
視察研修項目	皆生みらいの灯り推進事業について		
<p>感想・所見など</p> <p>皆生温泉は、皆がよみがえるという意味で、100年の歴史があり、白砂青松の景観で、夏は海水浴、冬は大山が車で30分の所にあり、団体旅行を中心に発展してきた。大規模旅館が多く、団体旅行が減少し固定費など大きく経営を圧迫してきた。</p> <p>コロナ禍で客数が半減し、旅館だけでなく、地域をどうしていくかという課題が出てきた。</p> <p>まちにかかわる人を増やす、人材育成を図ってきた。その中で、カイケプレス毎月一回発行し、地元紙に折り込んだり、地域の回覧板で回覧してきた。カイケエリアデザインスクールなどを実施してきた。</p> <p>28のアクションプランを立て、皆生温泉みらい灯り推進事業を官民一緒に実施し、海面に接した遊歩道の街路灯や照明に浮かぶ松並木など、魅力あるものにしてきた。海辺のホテルなどは、生垣の一部を開口し、海岸に面する敷地にカフェなどの立ち寄れる場所を設置したり、オープンなスペースが広がってきている。</p> <p>皆生みらいの灯りコンセプトは、県外の旅行客だけでなく、県内や地元の人も足を運ぶようになった。空き地などを無料の駐車場として提供したり、行きやすい環境も整備してきた。</p> <p>マルシェやキッチンカー等の出店など、イベントにより集客数も上がってきている。今年度はコロナ前の40万人を抜く勢いがあるということだった。</p> <p>これからの100年を考えるシンポジウムや地域住民の参加など、魅力をどのように発信していくか、みんなで皆生温泉の今後を考えている姿勢は、学ぶべき点が多かった。</p> <p>灯りを一基取り替えるだけで、ホテルや旅館の雰囲気は一変して情緒あふれる風景を醸し出し、温泉街の一体化など相乗作用が見込まれ、訪れたい場所になっていた。説明を受け、温泉街や海岸線を一度ゆっくり歩いてみたいと思えた。</p> <p>寒河江の老舗の温泉など、どのように特色を生かしリピーターを増やしているのか、今後、官民で考えていくひとつの例となった。</p>			

様式第2号

<p>視察研修先</p>	<p>島根県松江市議会</p>	<p>氏名</p>	<p>太田 陽子</p>
<p>視察研修項目</p>	<p>MATSUE 起業（エコシステム推進事業）について</p>		
<p>感想・所見など</p> <p>人口減少に歯止めをかけるため、若い世代を応援できる街、起業創業などの支援を行ってきた。令和3年度より事業を展開してきた。</p> <p>チャレンジャーファーストの考え方で、起業から安定まで、伴走する形で支援している。</p> <p>県や商工会、市とそれぞれ支援していたが連携して行うようにしてきた。</p> <p>地方創生交付金を活用して、支援している。</p> <p>地元のホテルを起業創業の拠点となる「煎 SEN」「縁雲」（えんうん）を運営している。</p> <p>創業のためのコワーキングスペースやレンタルオフィスなど、民間のホテルが経営していた。イベントなどの開催や起業の相談などの機会を定期的で開催していた。なかなか、起業につながることは難しく、成功例は1件ということだったが、チャレンジャーファーストの精神で、挑戦する意欲を育てていくことが、重要ということだった。失敗してもまた次につなげていくなど、フォローしているということだった。</p> <p>ホテルを改装して作った「コワーキングスペース」は、利用者も増えているということだった。宍道湖などを大きな窓から望め、好きな場所で作業ができるスペースがあった。始まったばかりの施策であり、今後の成果など注目したいと思った。</p> <p>起業創業への産官学金の総合的な支援など、新たな取り組みであり、今後の目標に向けて取り組んでいくということだった。</p> <p>若者の起業や創業など、意欲をもって取り組めるように、「チャレンジャーファースト」の精神で支援していくということだった。</p> <p>始まったばかりの施策であり、今後の動向など注目していきたい。</p> <p>日本中、どの地域でも、若者が自分らしく働き、暮らせるような施策の充実が望まれる。</p> <p>先進的な事例であり、今後、寒河江の地でどのように展開できるか、考えていきたい。</p>			

様式第 2 号

<p>視察研修先</p>	<p>島根県出雲市議会</p>	<p>氏名</p>	<p>太田 陽子</p>
<p>視察研修項目</p>	<p>縁結びデジタルプロモーション事業について</p>		
<p>感想・所見など</p> <p>出雲市は、出雲空港があり、隣の大社町には出雲大社があり、宍道湖など観光資源に恵まれており、風光明媚な土地柄であった。</p> <p>出雲シティセールス事業として、縁結び情報発信や産業情報発信等、インターネット上に掲載する動画広告から、幅広い層を専用ウェブサイトへ誘導し、出雲市への興味を高めてもらうきっかけを作っている。なんとなく出雲市を知っている潜在的なファンをターゲットにインターネット広告を配信し、総括専用ウェブページへ誘導している。ウェブページで出雲市への興味関心を高めてもらい、定住人口、交流人口の増加につなげていくという事業であった。</p> <p>令和 3 年度より本格的に運用し始めたということで、専用のウェブサイトへのアクセス数など、まだ少ないようで、事業の成果など未知数のようだった。</p> <p>出雲の企業の魅力の発信や、関西や広島へ企業とともに出向き、「ジョブ・ナビ IZUMO」など、若者を地元に戻ってきてもらう施策を行っていた。</p> <p>高卒での就職者は少なく、専門学校や大学などへの進学者が多く、若者の県外流出は多いということだった。</p> <p>各企業の求人情報を掲載したり、採用担当者からのメッセージなどを載せているということだった。</p>			